ツネログ #23

2026年7月号

皆さん、こんにちは。

ヒューストンでFIFAワールドカップ2026ラウンド32、ブラジル代表との戦いを見届けました。SAMURAI BLUE（日本代表）は残念ながら力及ばず敗れてしまいましたが、選手たちは最後まで本当によく戦ってくれたと思います。目標としていたステージには届かず、悔しい結果となりました。私自身、もっと高いところまで勝ち進めると信じていただけに、このタイミングで大会を去らなければならないことに寂しさを覚えました。それでも、世界トップレベルとの差を一歩ずつ着実に縮めているという手応えをあらためて感じることができた大会でもありました。

ワールドカップの舞台に来て、大会に臨むにあたり、国としてのサッカー「総合力」がいかに重要かを再確認しました。ピッチ上でつくり上げるサッカーの部分、つまり戦術、技術、体力における日本のレベルが高くなっていることは間違いありません。

今大会を通じて、日本の組織的な戦いは相手にとっても攻略が難しいものだったと思います。個々のレベルも確実に向上しており、局面ではオランダやブラジルを相手に上回る場面もありました。一方で、特にブラジル戦では自分たちで主体的にボールを動かしながら相手陣内へ攻め込む時間を増やすことができなかったのも事実です。ビルドアップの局面で、もう少し勇気を持ってボールをつなぎ、自分たちのサッカーを表現することができれば、さらに試合を優位に進められたのではないかと思います。ワールドカップという特別な舞台やアウェイの雰囲気の中でも、慌てず、自信を持って自分たちのサッカーを表現することが次の成長につながると感じました。

それと同時に、テクニカルスタッフ、メディカルスタッフ、シェフをはじめ、裏方として支えてくれる全ての人々が周到な準備をしてくれました。

ナッシュビルにベースキャンプを置き、オランダ代表との引き分け、チュニジア代表への勝利、スウェーデン代表との引き分けを経て、3大会連続でグループステージ突破を果たしました。移動は少なくともストレスが掛かるものですが、昨年9月に実施したアメリカ遠征の経験が活きていました。チーム全体のコンディションを見ても、心身のコンディショニングもうまくいっていると感じました。

私も基本的にチームに帯同し、ミーティングにも参加しました。キャプテンの遠藤航が離脱する際は、チームに動揺がないか心配ではありましたが、全員でそれを乗り越えようとする姿にグループの強さが垣間見えました。そのことはオランダ戦2日前のトレーニング後にチームに伝えましたし、「みんなのことを信じているし、互いを信じてやってほしい」とも言いました。ケガ人も出た中で一致団結して戦ったことは、チームを傍らで見てきた立場として誇りに思います。

また、日本代表のサッカーに対してのみならず、チームの振る舞いからファン、サポーターの応援に至るまで高い評価の声をいただきました。ダラスでは地元のニュースで「布団が吹っ飛んだ」のジャパニーズジョークが取り上げられ、モンテレイでは「ハポン！ ハポン！」という大きな声援を受けるなど、日本サッカーが着実に世界に認められていることも実感しました。

今大会を通じて、前回大会よりも日本ができることは確実に増えました。それはこの4年間積み上げてきた成果であり、森保一監督が8年間かけて築いてきたチームづくりの成果でもあると思います。一方で、大会前に負傷者が相次ぎ、重要な選手を欠いて戦わざるを得なかったことも事実です。世界のトップレベルでプレーする選手をさらに増やし、誰が出場しても同じレベルのパフォーマンスを発揮できる選手層の厚みをつくることが、ワールドカップでさらに上を目指すためには必要だと感じています。

そのためには、日本代表だけを強化すればよいということではありません。日々の普及や育成、競技環境の充実など、日本サッカーを支える全ての方々の取り組みが、未来の日本代表につながっています。普及から育成、そしてトップまでが一つにつながった日本サッカー全体の総合力をさらに高めていくことが、世界の頂点に近づくためには欠かせないとあらためて感じました。

ワールドカップの戦いにおいて日本代表を応援し、支えていただいた全ての皆さまに感謝いたします。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮本恒靖

会長の活動報告

2026年5月15日～6月4日（抜粋版）

5/15(金)

キリンチャレンジカップ2026・FIFAワールドカップ2026 SAMURAI BLUE メンバー発表記者会見(東京都内)

事前にメンバーを聞かずに記者会見に臨みましたが、選手たちの名前が一人ずつ読み上げられるたびに、本大会への期待が高まっていくのを感じました。日本中の皆さんとともに、最高の景色を目指していきます。

5/17(日)

AFC U17女子アジアカップ中国2026 決勝 U-17日本女子代表 vs. U-17朝鮮民主主義人民共和国女子代表(中国/上海)

決勝は悔しい敗戦となりましたが、この世代にとって大きな糧となる経験になったはずです。世界を目指す中で見えた課題と向き合いながらさらに成長し、U-17女子ワールドカップでの飛躍につながることを期待しています。

5/18(月)

なでしこジャパン(日本女子代表)監督発表記者会見(東京都内)

なでしこジャパンの新監督として狩野倫久監督を迎え、新たなスタートを切りました。世界一奪還に向けて、チームがどのように進化していくのか楽しみです。なでしこジャパンの未来につながるチャレンジを後押ししていきます。

5/20(水)

JFAみらい会議(blue-ing!)

「サッカーで未来をつくる」という思いのもと、JFAの成長戦略とサステナビリティ戦略を発表しました。さまざまな立場の皆さんとの対話を通じて、サッカーが社会に果たせる役割の大きさをあらためて認識しました。

スポーツ立国調査会(自民党本部)

5/22(金)

AFC U17アジアカップサウジアラビア2026 決勝 U-17日本代表 vs. U-17中国代表(サウジアラビア/ジッダ)

5/25(月)

日本サッカーを応援する自治体連盟 国への要望書提出(衆議院第一議員会館)

日本サッカーを応援する自治体連盟　総会(JFAハウス)

全国各地でサッカーを通じた地域づくりに取り組んでいただいている自治体の皆さんに、あらためて感謝申し上げます。これまで各地を訪問する中で、サッカーが人を育て、地域をつなぎ、まちに活力を生み出していることを実感してきました。これからも皆さんと連携し、その価値を広げていきます。

5/26(火)

Jリーグ理事会(オンライン)

2025/26 WEリーグアウォーズ(国立競技場)

今シーズンも素晴らしいプレーで多くの感動を届けてくれた選手、監督、クラブ関係者の皆さんに敬意を表します。WEリーグは着実に成長を続けています。支えてくださる方々とともに、女子サッカーの可能性をさらに切り拓いていきます。

5/27(水)

WEリーグ理事会(JFAハウス)

5/28(木)

「三井不動産 SAMURAI BLUE 3D EXPERIENCE Presented by SAISON」お披露目イベント(MIYASHITA PARK)

5/29(金)

アパホテルとのJFAナショナルチームパートナーシップ契約再締結式(JFAハウス)

アパホテルとのパートナーシップを継続できることを大変心強く感じています。日本代表をより身近に感じていただけるような機会を広げてくださっていることに感謝するとともに、今後も新たな価値をともに生み出していきたいと考えています。

5/31(日)

キリンチャレンジカップ2026 ひとつになるから強くなる SAMURAI BLUE vs.アイスランド代表(国立競技場)

満員の国立競技場を包む大声援、全国から寄せられた応援に、大きな力をもらいました。選手、スタッフ、そして応援してくださる皆さんがひとつになることで、SAMURAI　BLUEはさらに強くなれると確信しています。いよいよ世界への挑戦が始まります。

6/1(月)

SAMURAI BLUE映画『ONE CREATURE』キックオフ特別試写会(ユナイテッド・シネマ豊洲)

6/4(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2026年度第8回理事会が6月4日（木）にJFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

報告事項

なでしこジャパンコーチングスタッフの選任

5月15日の女子委員会において、なでしこジャパン（日本女子代表）のコーチとして元SAMURAI BLUEの内田篤人氏、元なでしこジャパンの近賀ゆかり氏、GKコーチとして佐野智之氏がそれぞれ選任されました。

フットサル日本女子代表コーチングスタッフの選任

5月18日の技術委員会において、フットサル日本女子代表のコーチにアルコ神戸監督の加藤正美氏、GKコーチにバルドラール浦安ラス・チュラスの杉山藍子氏が就任することが決まりました。また、大森知氏が引き続きフィジカルコーチを務めることになりました。

2026/27サッカー競技規則が改正

2026/27サッカー競技規則が改正されました。主な変更点は、試合のテンポの乱れや時間の損失に対応するための措置として、交代する選手は10秒以内にピッチから出ること、その時間制限を超えた場合、交代選手は1分が経過した後の最初のアウトオブプレーまでピッチに入ることができなくなること、スローインまたはゴールキックを行うチームが意図的に再開を遅らせ、主審が5秒のカウントダウンを終えたときにボールがインプレーになっていない場合、スローインを相手チームに与える、もしくはコーナーキックを与えること、などです。また、公平性とサッカーの魅力向上を目的に、ビデオアシスタントレフェリー（VAR）が介入できる項目や条件も見直されました。

各種委員会設置部会 部会員の選任

技術委員会、医学委員会、およびサステナビリティ・リスペクト委員会に設置されている各部会の部会員が選任されました。

新たに3人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要な「Proライセンス」について、大場健史さん、木藤健太さん、羽田憲司さんの3人が同ライセンスを取得しました。これで、2025年度に受講した20人全員が同ライセンスを取得したことになります。

Information

ヨーロッパサッカー連盟（UEFA）とサステナビリティ領域における協力議定書を締結

JFAはヨーロッパサッカー連盟（UEFA）とサステナビリティ領域における協力議定書「Cooperation Protocol」を締結しました。UEFAは「フットボール・サステナビリティ戦略2030」の戦略的方針と目標に基づき、人権保護や人種差別の撲滅などに加え、温室効果ガス（GHG）削減などの環境保全や子ども・若者のセーフガーディングなどにも取り組んでいます。
JFAにとっても気候変動の対応や人権の尊重、誰もが安心してサッカーに関われる環境づくりは不可欠です。JFAでは、こうした社会課題への取り組みを「アスパス！」と称し、「環境」「人権」「健康」「教育」「地域」の5つを重要課題としてそれぞれに係る活動を推進しています。今後、UEFAの取り組みや好事例、知見などを生かしてサステナビリティ活動のさらなる充実につなげるとともに、この協定によって得られる学びを47都道府県サッカー協会や各種連盟、パートナー企業、全国のサッカーファミリーと共有し、持続可能なスポーツ環境の維持や地域コミュニティーの発展に生かしていきます。※5/20発表

JERA Crossとコンサルティングパートナーおよび JFAサポーター契約を締結

JFAは、株式会社JERA Crossとコンサルティングパートナーおよび JFAサポーター契約を締結しました。JERA Crossの支援を受け、温室効果ガス（GHG）排出量の算定と削減に取り組み、2031年までに2026年度比で50%削減を目指します。再生可能エネルギー活用や啓発活動、加盟団体・パートナー企業との協力体制強化も推進。JFAは「アスパス！」を軸に多様なサステナビリティ活動を展開しており、2024年には熱中症対策ガイドラインを改訂し、夏季大会の開催方針も見直しました。JERA Crossとの連携を通じて、引き続き未来を担う子どもたちが安心してサッカーを楽しめる持続可能な環境づくりを目指します。※5/20発表

育成年代選手の"適性の診断と育成"への理解を深める プログラム「JFA TIDラーニング」をスタート

JFAは今年、全国のサッカー関係者を対象とした新たな学習プログラム「JFA TIDラーニング」（JFA Talent Identification and Developmentラーニング）を開始します。
これは、育成年代の選手に対する「適性の診断と育成」への正しい理解を促し、実践的なスキルを体系的に学ぶためのプログラムで、育成年代の指導者やプロチームのスカウト、保護者だけでなく、JFA IDを取得していればサッカー以外の競技関係者も受講できます。受講はオンライン形式で、費用は無料（今後有料コースも追加予定）。本取り組みによって、全国的な人材育成環境の充実と持続的な強化を目指します。※6/1発表

日の丸自動車興業株式会社とJFAサポーター契約を締結

JFAは日の丸自動車興業株式会社（東京都文京区）と、JFAサポーター契約を締結しました。日の丸自動車には、日本代表チームの活動や各種事業において、選手・スタッフの円滑かつ安全な移動をサポートしていただきます。※6/1発表

JFA×コールマン　全国9会場でJFAキッズフェスティバルを開催

JFAとニューウェルブランズ・ジャパン合同会社コールマン事業部は、今年1月に締結したソーシャルバリューパートナー契約に基づき、コールマンのアウトドア商品を活用した熱中症対策を講じながら、全国9会場でJFAキッズフェスティバルを開催します。さらに、「見る」「する」「関わる」といったさまざまなサッカーシーンにおいてコールマンのアウトドア商品を活用し、サッカーファミリーが安全に、快適にサッカーを楽しむ環境を広げていきます。※6/3発表

その他の主なニュース

- FIFAワールドカップ2026に臨む日本代表応援グッズ、5月15日に発売開始（5/15発表）
- 日本サッカー協会 期間限定オフィシャルグッズストア「JFA STORE」と「JFA BLUE ZONE」を6月1日(月)よりオープン（5/26発表）
- 日常に、日本代表の誇りを。『JFA STORE ZOZOTOWN店』5月27日にグランドオープン！ ～オフィシャルアンバサダー「JI BLUE」の限定グッズの予約販売を開始（5/27発表）
- JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」 FIFAワールドカップ2026　SAMURAI BLUEのグループステージ3試合 パブリックビューイングを開催（5/29発表）
- SAMURAI BLUE 2026年6月のモンテレイでのキャンプを「キリンチャレンジキャンプ」として実施（6/2発表）
- アパホテルとのJFAナショナルチームパートナーシップ契約延長に基本合意（6/2発表）
- 東京タワーがSAMURAI BLUEのチームカラーにライトアップ ～「最高の景色」を目指し、試合前夜に日本中に応援を呼びかけ（6/3発表）

Jリーグチェアマン／WEリーグチェア

野々村芳和さんをマンマーク！

動画も公開中！

第23回はJリーグチェアマン、WEリーグチェアを務める野々村芳和さんをゲストに迎えて、マンマークします。
シーズン移行初年度となる2026/27シーズンを前に、これからのJリーグ、
そして昨シーズンにおいて年間総入場者数で過去最多（38万179人）となったWEリーグへの期待、展望を語り合いました。

8月開幕となるJと、6年目に向かうWE。いつかは世界の5大リーグとなるために

宮本 ハーフシーズンとなった明治安田Jリーグ百年構想リーグでも、プレー強度にこだわったサッカーをするチームが多くなった印象です。欧州と同じくマンツーマンを採用するチームも増えて、背後にバンと蹴られたら昔はセンターバックがカバーしていたところにもスペースができるので、欧州のサッカーシーンとだいぶ重なってきていますよね。

野々村 強度が上がっているというデータがある一方、アクチュアルプレーイングタイム（APT）はそれほど伸びておらず、むしろちょっと減っているというデータもある。欧州のレベルに近いフットボールをするチームは確かに増えてきたけれど、まだそこは足りない部分。だからこそ百年構想リーグがいいステップになっているとは思います。気温と疲労の相対関係でパフォーマンスが上がるというデータもあるし、プレーしやすい環境になるとともにAPTも伸びて、より高いレベルのリーグになっていけるんじゃないかな、と。

宮本 シーズン移行に舵を切った大きな理由をチェアマンからあらためて語っていただけますか。

野々村 世界のサッカーマーケットにおいて勝負に出ていくリーグになれるか。当然ながら選手は世界を目指しているし、クラブ側もやっぱり上を目指したほうがいいよねというところから話はスタートしています。Jリーグに行けばより成長できるんだと選手から選ばれる環境をつくる。そのために必要なものって何だろうと考えたとき、一つがシーズンの始まりと終わりを変えることでした。今、フットボールの面でもビジネスの面でも成長してきている中で、そのスピードをもっと上げることができると僕は思っています。いつか5大リーグの一つになっていけるように。

宮本 人々の生活の中にサッカーがあるという状態をつくるには、代表チームの活躍もそうですが、やっぱり国内リーグが充実していかないといけない。スタンドの様子を見ていると、新しい、若いファン、サポーターも増えていますよね。

野々村 30年後の世界のサッカーシーンのヒエラルキーがどう変わっていくかなんて分からないですよ。UEFAチャンピオンズリーグよりAFCチャンピオンズリーグのほうが盛り上がる可能性だってある。夢みたいな話に聞こえるかもしれませんが、30年前はイングランドのプレミアリーグとJリーグって、ほぼ同じくらいの収益だったわけです。可能性を信じてやっていかなきゃダメだって僕は思っています。

宮本 シーズン移行に関しては、JFAとしても日本の夏が危険な暑さになっている今、熱中症対策を呼び掛けて7月、8月はJFA主催の公式戦を行わないよう呼び掛けています。選手の安全を守る、サッカー関係者、サッカーファミリーの安全を守る意味においても大事なメッセージになると考えています。

野々村 普段トレーニングしていない人が、夏の日中に外で試合をやるのは大変だし、危険ですよ。Jリーグやプロでも5～7月の疲労度の蓄積で迎える8月と、（シーズン移行によって）スタートで迎える8月では違ってくるでしょう。日本サッカー界全体として、夏の過ごし方は考えたほうがいいと感じています。

宮本 続いてWEリーグについてです。野々村さんがチェア、自分が副理事長という立場になって、2年になろうとしています。選手たちの意識やサッカー自体にも変化があって、入場者数も増えてきました。野々村さんはどのように見ていますか。

野々村 僕らの仕事としてはまずは不安定だったWEリーグをどう安定させていくか。どちらかと言うとビジネス的な面をやってきたんだけど、そこは多分もう大丈夫でしょう、と。一方でツネの言うとおり、このリーグを盛り上げて自分たちがやっていくんだっていう意識を、選手たちから強く感じますね。印象深かったのは4月29日に開催したWEリーグクラシエカップ。準優勝に終わったRB大宮アルディージャWOMENの中心選手たちがメダル授与のときにチームメートに「笑って、笑って」と促していた。男子だと準優勝チームはなかなか笑顔にならないから、すごいなと思って見ていましたよ。

宮本 WEリーグには勝った後もみんなで喜ぶとか、来てもらったお客さんに「ありがとう」というメッセージを直に伝えるとか、ほのぼのとしたいい空気感があるんですよね。

野々村 マーケティングをしっかりしてプロモーションしていくと、もっともっとお客さんも増えると思う。欧州では一部のゲームで多くのお客さんが入っているけど、イングランドでさえ女子サッカー単体で十分な利益が出ると言うところまでは行っていない。日本も早く（女子サッカーに）目を向けることでそれこそ男子の5大リーグみたいな位置に、WEリーグが入っていけるんじゃないかな。

宮本 課題はどうですか。

野々村 投資余力をしっかりつくれるかどうか。リーグもクラブも売り上げをしっかり上げて、それをどこにどう投資して、いい循環をつくっていけるかというところでしょうね。

宮本 今日はありがとうございました。これからもJFA、Jリーグ、WEリーグが歩調を合わせて、一緒にやっていきましょう。

野々村芳和（ののむら・よしかず）

1972（昭和47）年5月8日生まれ。静岡県清水市出身。
慶應義塾大学卒業後、1995年にジェフユナイテッド市原（現ジェフユナイテッド千葉）加入。2000年にコンサドーレ札幌（現北海道コンサドーレ札幌）に移籍し、01年に現役引退。サッカー解説者を経て、13年に北海道フットボールクラブ（現株式会社コンサドーレ）代表取締役社長に就任。15年公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）理事、22年より同リーグチェアマンおよびJFA副会長。24年より公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）チェアを兼任。

※次号は2026年8月発行予定／本誌クレジット表記のない写真：©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE

JFA DREAM 夢があるから強くなる
発行：公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル　電話：050-2018-1990　HP：https://www.jfa.jp